特性的共感性と共感対象との関連

○谷田 林士

(大正大学人間学部)

キーワード：特性的共感性、情動的共感、視点取得

The relationship between trait empathy and the empathic target

Shigehito, TANIDA

(Faculty of Human Studies, Taisho Univ.)

Key Words: trait empathy, emotional empathy, perspective taking

目 的

本研究の目的は、特定の共感性の個人差と共感的反応が作用する対象者の範囲との間に関連があるかどうかを探索的に検討することにある。共感性研究では、共感性を多次的に捉える見方が主流であるが、共感性の各次元がどのような対象にまで作用し、共感的な反応を生じさせるかについては明らかではない。共感性は他者の情動を共有し理解することであるが、血縁者や親密な相手に対して強く作用することが自明である。しかし、災害に対する援助に代表されるように、これまでに関わりのない他者に対しても情動的な共感的反応が生じることがある。さらに、近年の脳科学研究では、直前に公正な行動を選択した相手が苦しんでいるのを見ると、自身の脳内の痛みに関する領域が活性化することが示されており、物理的痛みに対する共感性の神経基盤及びその作用する対象が明らかになりつつある (Singer, Seymour, O'Doherty, Stephan, Dolan, & Frith, 2006)。本研究では、多次的な共感的反応がどのような対象に対して作用するか、そしてその作用する対象の範囲に特性的な共感性が影響しているかを調べることを目的としている。具体的には、研究対象の大学生にとって親密な関係の相手から全く関連性のない相手までを想起させ、それぞれの相手に対して共感的反応を示すことがあるかどうかを回答させる。そして、その反応と個人差としての特性共感性との関連性を検討する。特性的共感性に関しては、谷田・山岸 (2004) の分類を用いた。谷田らは代表的な複数の共感性尺度の再検討を行い、共感性を他者志向的情動反応、自己志向的情動反応、想像性、視点取得の下位次元に分類しており、これらの各次元と共感的反応の関連性を検討する。

方 法

調査対象者 大学生 104 名 (男性 34 名、女性 70 名)、平均年齢は 18.96 (SD=1.14) であった。

質問紙の構成 共感反応が作用する範囲を測定するために調査対象者自身との関係が「親友」、「会ったら会話する程度」、「顔見知り」、「同じ学校の面識のない人」、「他大学生の面識のない人」というように、親密な人から順に心理的な距離を遠くした 5 人の対象を用意し、それぞれの人を想起させた。「その人が楽しそうにしていると私も楽しくなる」、「その人が困っていたら心配で声をかけてしまう」、「その人が不幸な目に合っていると私もつらい気持ちになる」、「その人が喜ぶような行動をとってしまおう」という情動伝染の傾向を測定する 4 つの項目と、「その人が緊急事態に陥って私にお金を貸してほしいと頼んで来たら貸すことができる」という他者志向的な行動を測定する項目、「その人が私と違う考え方であっても、相手の立場に立ってその人を理解しようとする」という相手の理解を測定する項目への回答を「1. そうではない」から「7. そうである」の 7 件法で求めた。

結 果

特性的共感性尺度 不幸な人への同情を示す他者志向的情動反応尺度 (以下、他者志向的 ER) の平均値 (SD) は 5.04 (0.89)

となり、 α 係数は 0.81 と高かった。緊急事態でのビクビク感を示す自己志向的情動反応尺度に関しては、平均 4.51 (1.15)、 α 係数 0.81 であった。認知的共感性の想像性尺度の平均は 4.43 (1.09) であり、信頼性係数も 0.83 と高く、視点取得 (平均 4.72, SD=0.98) に関して α 係数が 0.75 と安定していた。

対象別共感的反応 親友から順に心理的距離が離れていくように対象を 5 段階に分け (親友から面識のない他大学生まで)、それぞれの対象に対して以下の 3 つの種類の共感性反応の程度を調べた。ひとつは情動伝染の傾向 (4 項目の平均値)、緊急事態での金銭的な援助を含む他者思考的行動、そして対象の相手の立場に立って理解しようとする認知的共感反応である。これらの共感的行動と対象の心理的距離の関係性を示す指標として、心理的距離の 5 段階を独立変数、それぞれの共感反応を従属変数とした回帰式を個人ごとに求め、その回帰係数を共感反応が作用する範囲指標とした。負の傾きが強いことは心理的距離が離れるほど共感行動を示さないことを意味する。それぞれの回帰係数の平均 (標準偏差) は、情動伝染傾向 -0.94 (0.26)、他者志向的行動 -1.07 (0.46)、相手の理解 -0.62 (0.51) であった。

特性的共感性と対象別共感の相関 それぞれの相関を調べたところ、情動的共感性の他者志向的 ER と他者志向的行動の回帰係数に負の関係 ($r=-0.25, p<0.05$) が、視点取得と他者理解の回帰係数に正の関係 ($r=0.27, p<0.01$) が見られた。

Fig. 1 対象別共感的反応

考 察

実験の結果、同情に代表される他者志向的な特性共感性が高いほど心理距離が近い人物に対して、金銭的援助のような強い共感行動を示す可能性が示唆されたが、情動伝染の傾向とは関連がなかった。一方、視点取得が高いほど、心理的距離が遠くなくてもその相手を理解しようとする反応が強いことが示された。

引用文献 ◆Singer, Seymour, O'Doherty, Stephan, Dolan, & Frith (2006). Empathic neural responses are modulated by the perceived fairness of others. *Nature*, 439, 466-469 ◆谷田林士・山岸俊男 (2004). 共感が社会的交換場面における行動予測の正確さに及ぼす効果. *心理学研究*, 74, 512-520.